

学校だより



草花小「タートル」

令和5年2月1日
あきる野市立草花小学校
校長 芝田 智昭



2月号

豊かな情操 豊かな人間性

副校長 寺内 雄一

先月は学校公開・展覧会ならびに校内書写展にご来校いただきありがとうございます。子供たちの学習の様子や作品をご覧いただくことができ、大変うれしく思います。また、先週末はあきる野市小学校展覧会が行われました。本校からも図工の作品、書写の作品が数点出品されました。

本校展覧会で、私は特に2点の作品に心をうばわれ、じっと見ていました。



『1年生の魚』ワクワクする。角やひげに見えるものがある。ヒレは場所によって形が違う。この魚に込められた思いは。うろこの形も場所によって違う。規則性はあるのかな。どうやって泳ぐのかな。どうやって餌をとるのだろう。目も輝いているように見える。（見ている人の感想）

『6年生カボチャ』カボチャのでこぼこ感、色の移り変わり、不揃いで思い思いの種・・・よく見てる。この題（「1億年に一度落ちてくるカボチャ」）に込められた思いは。思い切りよく大胆に描かれてる。（見ている人の感想）



芸術表現は7つの力を高めると言われています。

1 観察力 2 想像力 3 分析力 4 言語化力 5 表現力 6 創造力 7 行動力

子供たちの作品を見ていると、多くの成果が表れていることが実感できました。AI 時代を生き抜く子供たちの指導において、芸術教育の重要性が注目されています。新たなアイデアや価値を生み出すためには、科学的な知識や考え方だけでは不十分であり、ゼロから生み出せる力が不可欠です。人工知能が最も苦手とする分野であり、これからの時代を生き抜くために大切な力となります。人間は豊かな情操をストロングポイントとして勝負するしかなくなるかもしれません。

「分からない問題や難しい勉強に遭遇した。」「友達にいじわるをしようとする人がいた。」「自分にいじわるをする友達がいた。」「どうしても勝ちたい勝負の時がきた。」「納得いかない出来事があった。」…日々目まぐるしく感情を揺さぶられる子供たちに、これらの力と感覚があったら、困難や壁を成長のきっかけに変えられるのかもしれないと思えます。子供たちに寄り添い、そして時に見守る姿勢を大切に、豊かな情操や人間性がより育つよう私たちも日々勉強です。



2月の行事予定



日	曜	予 定	日	曜	予 定
1	水	ふれあい月間始	15	水	集会 4時間授業(全)
3	金	なわとび週間終	18	土	ドッジボール大会(2・3年)
4	土	ドッジボール練習	20	月	授業参観・保護者会(5・6年)
6	月	安全指導 避難訓練 移動教室事前検診(ふたば) 委員会活動	21	火	授業参観・保護者会(3・4年)
8	水	集会 移動教室(ふたば)	22	水	6年生を送る会
9	木	移動教室(ふたば)	23	木	天皇誕生日
10	金	漢字検定	24	金	授業参観・保護者会(1・2年)
11	土	建国記念の日 ドッジボール練習	25	土	教育フォーラム
13	月	児童朝会 クラブ活動(3年見学)	28	火	ふれあい月間終
14	火	おもいやりの日 入学説明会			



五日市憲法（6年）



ゲストティーチャーを招き五日市憲法を勉強しました。教科書にも書かれている憲法です。

会場片付け（5年）

展覧会の片付けを、24日(火)に5年生が行いました。最高学年になるための準備が確実に始まっています。今後は縦割り班活動等でも5年生が中心となり進めていきます。頼もしくなっていく5年生に期待です。6年生にはもう少しの間、見守ってもらいます。

校内書写展



どの学年も集中して取り組んだ書き初めは、素晴らしい作品でした。

スクリレについて

「スクリレ」を活用したお手紙の配信と欠席連絡が順調に進んでいます。保護者の皆様には御協力いただき感謝申し上げます。お手紙の配信については、2月よりスクリレ中心に移行します。アンケート等以外のお手紙についてはスクリレのみとなります。

令和4年度学校評価について

校長 芝田智昭

学校評価へのご協力ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告するとともに、次年度の教育活動に向けた考察もご覧いただければと思います。

1 調査概要

(1) 調査期間

令和4年11月15日～令和4年12月23日

(2) 回答率

児童 95.0% (603人/評価対象児童629人)

保護者 68.7% (322戸/評価対象家庭469戸) ※家庭数で依頼

教員 100% (28人/28人)

(3) 評価尺度

○積極的肯定「そう思う」 ○消極的肯定「だいたいそう思う」

●積極的否定「そう思わない」 ●消極的否定「あまりそう思わない」

※肯定的評価・・・積極的肯定＋消極的肯定、否定的評価・・・積極的否定＋消極的否定

2 全体的な考察

(1) 保護者の回答率が70%に満たなかった。学校からの回答を促す働きかけが不足していたと言わざるを得ない。

(2) ほぼすべての設問において肯定的評価が80%を超えていたので、教育活動は概ね良好な状況にあると考えられる。

3 特徴的な設問に関する考察

(1) 評価項目1：確かな学力の定着

積極的肯定が児童・保護者・教員とも設問の中で最も低い値になっている。『分かるまで』をどう捉えるか、というあいまいさもあるが、満足度が他の設問よりも低い傾向にあることは、学校として心に留めておかななくてはならない。

(2) 評価項目3：いじめの防止と多様な相談体制の充実

児童の肯定的評価が78%で、すべての設問の中で唯一80%に達しなかった。児童が安心して学べる環境を整えることは学校の責務である。「学校ではいじめが起きないようにしてくれるし、もし嫌なことがあったら先生などに相談できる。」と、22%の児童が思っていないという結果なので、このことを重く受け止め改善に努めていく。

(3) 評価項目4：豊かな心の醸成

特別の教科道徳に限定した設問だったが、予想以上に肯定的評価が多かった。特に保護者の95%という値はうれしい驚きで、道徳授業地区公開講座等において実際に道徳の授業を参観してもらっている結果かもしれない。児童も積極的肯定が半数を超えており、今後も道徳授業の充実を継続していく。

令和4年度 学校評価集計

評価項目	設問	結果			
		□ ア そう思う	■ イ だいたいそう思う	□ ウ あまりそう思わない	■ エ そう思わない
1 確かな学力の定着	児童 学校では、授業の内容を分かるまで教えてくれる。	43%	45%	8%	3%
	保護者 学校は、授業の内容を分かるまで教えてくれる。	27%	60%	11%	2%
	教員 私は、授業の内容を分かるまで教えている。	4%	84%	12%	0%
2 特別支援教育の推進	児童 学校では、自分が困っていることや友達が困っていることを聞いてくれて、助けてくれる。	51%	35%	10%	3%
	保護者 学校は、特別な配慮を要する児童への適切な支援や、当該児童を支える周りの児童への指導など、特別支援教育の充実に努めている。	34%	55%	10%	1%
	教員 私は、特別な配慮を要する児童への適切な支援や、当該児童を支える周りの児童への指導など、特別支援教育の充実に努めている。	31%	58%	8%	4%
3 いじめの防止と多様な教育相談体制の充実	児童 学校ではいじめが起きないようにしてくれるし、もし嫌なことがあったら先生などに相談できる。	48%	30%	16%	6%
	保護者 学校は、いじめの未然防止と教育相談の充実に努めている。	29%	58%	13%	0%
	教員 私は、いじめの未然防止と教育相談の充実に努めている。	38%	58%	0%	4%
4 豊かな心の醸成	児童 学校では、道徳の授業で気持ちや思いを深く考え、自分の意見を发表或したり友達の意見を聞いたりしている。	53%	35%	8%	4%
	保護者 学校は、道徳の授業において、気持ちや思いを深く考え、自分の意見を发表或したり友達の意見を聞いたりするよう努めている。	47%	48%	0%	5%
	教員 私は、道徳の授業において気持ちや思いを深く考え、自分の意見を发表或したり友達の意見を聞いたりするよう努めている。	42%	50%	0%	8%
5 健やかな体の育成	児童 学校では、体育の時間を中心に心も体も健康になるように取り組んでいる。	55%	30%	10%	5%
	保護者 学校は、体育の時間を中心に心も体も健康になるように取り組んでいる。	38%	58%	3%	0%
	教員 私は、体育の時間を中心に心も体も健康になるように取り組んでいる。	42%	46%	4%	8%
6 教員の資質・能力の向上	児童 学校では、先生が授業を楽しく・分かりやすくなるよう工夫している。	56%	32%	8%	5%
	保護者 学校は、授業を楽しく・分かりやすくなるよう工夫している。	42%	49%	8%	1%
	教員 私は、授業が楽しく・分かりやすくなるよう工夫している。	32%	64%	4%	0%